

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4773800034		
法人名	社会福祉法人 久仙会		
事業所名	まがい友遊苑		
所在地	沖縄県島尻郡久米島町字真我里366番地		
自己評価作成日	平成29年10月30日	評価結果市町村受理日	平成30年 2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JizyosyoCd=4773800034-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成29年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・居室入り口にはネームプレートと写真を掲載し居室をわかりやすくしています。 ・居室ごとにカーテンの色や壁紙の模様を変え入居者の方が区別しやすくしています。 ・余暇活動ではゲーム、カラオケ、体操などを取り入れ入居者の方々が充実できるよう工夫しています。 ・自治会へ加入地域行事等(エイサー)への参加で交流ができました。 ・リフト車(贈呈)がある事で外出の機会が増えメリハリのある時間を過ごす事ができている。 ・法人(デイ)との交流、イベントに参加交流の機会を増やしています。 ・カラオケ沖縄民謡を取り入れています。 ・楽しく体を動かせる体操等で参加意欲を高めるよう工夫しています。 ・手工芸(ちぎり絵、ぬり絵等)を楽しむ 個性がありよい。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設12年が経過した当事業所は、母体法人の介護福祉施設を中心に、各種研修や地域推進事業等を、一体となって取り組むと共に職員欠員時の応援や機能訓練等への指導・助言を得る等の協力体制を築いている。事業所は、これまで地域との交流を課題としていたが、今年地域自治会への加入を実現し、地域の一員として周知され地域住民とふれあう機会も増えている。食事は利用者の嗜好も反映し、三食とも事業所で調理し、毎食時には献立の紹介やおしぼりを提供し、職員も一緒に家庭的な雰囲気のもとで食事を摂っている。看護師の24時間オンコール体制をとり医療連携の下で重度化や終末期ケアにも対応できるよう、職員研修を実施し支援体制の整備に取り組み、利用者や家族の安心に繋げている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 2月16日

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着した理念を作り入居者、ご家族、訪問者、職員が見えやすいように玄関に掲載しています。またパンフレットや毎月発行している、まがい通信にも記載しています。	事業所は、地域密着型サービス事業所へと移行した時に見直した理念を継続して掲げ、家族や地域、母体法人の協力を得ながら、利用者が安心して暮らせるよう日々努めている。理念は、玄関に掲示し周知すると共に、日頃のケアで困難事例や職員の対応が気になる時は、全員で理念に立ち返り実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域(字)への加入を行うなど、地域の行事(ハーリー、町敬老会、字のエイサー、町祭り、花火見学)へ積極的に参加、地域との交流、触れあう機会が増えました。	今年、地域自治会に加入し、毎月広報誌等の配布で区長の訪問や自治会行事に利用者と参加するようになり、住民とふれ合う機会が増えている。敬老会等の事業所行事にも地域の方が訪れ、歌や三線、踊りを披露し、利用者と交流している。法人の地域推進事業会議にも職員が参加し、地域活動に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、町社会福祉協議会、公立久米島病院等との情報交換等を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回定期的に開催。委員の皆さまから意見、情報等を頂き、サービスの向上に繋げることができている。委員の皆さまへ、宛の活動報告等ができる良い機会となっている。	運営推進会議は、利用者や知見者、地域代表が参加し、年6回定期的に開催しているが、行政の参加は1回となっている。会議では、利用者の活動状況、事故や外部評価結果等の報告を行い、災害・事故対策への意見や地域の情報交換等もなされている。会議録はファイル化し玄関先に置き公表している。	運営推進会議に、指定権者として毎回、行政の参加が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例なケースについては、町福祉課、地域包括支援センター、町社会福祉協議会等と連絡取り合いサービスの向上に努めています。	行政とは、更新時や各種申請手続き等で窓口を訪問する他に、生活保護も連携して支援している。町主催のケアマネジャー会議に参加し、情報交換を行っている。長期間、運営推進会議への行政担当者の不参加が課題となっており、検討に期待したい。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 2月16日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の研修、法人等での研修会を行い、職員の意識向上を行っています。日中は施設内での施錠はおこなっていません。	法人主催の身体拘束や虐待防止の研修に、全職員が参加し、理解を深め、身体拘束のないケアに努めている。車椅子で突進する傾向のある利用者を拘束せずに対応するケアについて、職員間で検討した事例がある。リスクについて家族には、入居開始時や状況に応じて随時に説明し、理解を得ている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修などを通し、職員の意識向上を図り、入居者への虐待がないようスタッフ同士連携を取っています。	法人主催の高齢者虐待防止法に関する研修に、全職員が参加している。職員会議でも事例をあげ、虐待に該当か否かを話し合っている。職員による利用者の虐待発見時は、管理者に報告するよう周知している。管理者は、職員の意向を反映した勤務配置や休憩時間を確保し、職員の疲労やストレス軽減に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人(司法書士)、権利擁護事業(社会福祉協議会)と連携を行い入居者の支援を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書類及び重要事項書類の内容を説明し、説明後に疑問点が無いか確認を行っています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱とアンケート用紙を設置し、ご家族や訪問者の方が意見出ししやすいようにしています。	利用者からの意見や要望等は、日々のケアの中で聴いており、買い物や食事等の要望が主となっている。家族からは、面会時や運営推進会議等で聴き「レクやリハビリを充実させて」の意見には、法人と連携しリハビリ等の指導や助言を受け実践している。家族アンケートでは、運営に関する意見や要望等はなく、「感謝」の声が増えている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 2月16日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議を開催(必要時随時開催)全員が参加できる時間帯を工夫、運営に関する職員の意見、提案を確認、運営、利用者の質の良いサービスに繋がれるよう工夫しています。	職員の意見等は、定例会議や申し送りの他、業務中でも随時に聴いている。職員から誤薬防止策として、「薬は服用時に直接手渡す」等の提案があり、与薬方法を変更している。四季を表現する作品づくりの意見があり、利用者との共同作品を壁面に展示するようになった。「外出の機会を増やしたい」との意見には、リフト車の寄贈を機に外出の機会を増やしている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回の昇給と年二回の賞与、職員の資格に応じ、資格手当の支給をしています。 資格取得助成金制度で職員が資格取得をしやすいよう支援しています。	就業規則では、定期昇給や有資格者手当等の労働条件を整備し対応している。職員の家庭状況や希望に沿った勤務配置や休憩時間を確保するとともに、今年度から法人による人事考課が導入され、職員の個人面談も実施されている。資格取得助成金制度を設け希望者には対応されている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に合わせ法人内、法人外研修に参加させています。 資格取得にむけた支援を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人全事業所合同の勉強会、行事等を通し、職員との交流を行っている。 町主催の勉強会を通し、他事業所とのネットワークづくりを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者の方には職員が積極的に声かけを行いながら、ニーズの把握と不安感を和らげるよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 2月16日

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には施設等の説明を行うと共に家族からの要望や、疑問点等がないか確認しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の身体状況を確認し、ご本人及び、ご家族の要望、ニーズを踏まえサービス内容を決定しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	作業等を通し役割を持つ事でやりがいの持てる生活環境に努めるとともに、本人の生活風習等をしり、苑での生活共に暮らせる関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へは、月1回まがい通信(広報誌)を送付したり、面会で施設を訪れたさい、入居者の状況を報告したり、ご家族からの要望等がないか確認を行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ、地域の行事等への参加を行い、馴染みの方との再開、交流の場ができる支援を行う。	利用者の馴染みの人や場は、本人や家族、地域の人から聴き把握している。利用者の出身地域へのドライブや祭り見物の他、定期的に親族宅を訪問する等の支援もしている。事業所行事に地域のボランティアを受け入れ交流したり、元の職場仲間や知人の訪問も歓迎し、関係継続に努めている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 2月16日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係をみながら席の配置を調整したり、スタッフが間に入るなどコミュニケーションが取りやすいよう配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	顔を合わせた時等、声かけを行うなど状況等の確認を行い、必要時の支援等に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に要望を訪ねたり、日頃の会話の中からニーズの把握に努めています。	利用者の殆どが意志疎通ができ、日常会話を通して思いの把握に努めている。「家に帰りたい」との訴えには、家族に連絡を取り、対応して貰っている。利用者ができる洗濯物のたたみや食卓拭き等を役割として、介護計画に位置づけ支援している。発語の困難な利用者には、行動や家族の情報を下に、好みのテレビ番組や音楽を流す等の配慮をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用の経過把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの身体、能力、ADLの確認を行い、レベルに合わせた暮らしが送れるよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 2月16日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族の希望を伺い、スタッフとの話し合いを行い、介護計画を作成しています。	サービス担当者会議は、利用者や家族の他、社協や薬剤師等の関係者が参加し、意見は介護計画に反映している。介護計画は、毎月の職員カンファレンスや3か月毎にモニタリングを実施し、状態変化時には随時に見直しをしている。サービス目標期間設定で、長期と短期が同一期間となっている介護計画がある。	介護計画の、サービス目標期間について、長期と短期の期間設定による支援が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の生活状況、実践、結果、気づき等の記録を行い、職員間情報の共有を行い、介護計画書に取り入れ日々の生活の支援を行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	対応可能なニーズに対しては柔軟に対応行う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出張理容サービス(2ヶ月に1回)や行事等ではボランティアによる余興など依頼しています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の訪問診療を受け、主治医に状況報告を行い、今後の対応について確認を行っています。必要時は家族へ状況等の説明を行い対応行う。	利用者全員が、入居前から島の公立病院の医師がかかりつけ医となっており、月1回の訪問診療を受けている。看護師の週1回の訪問により、利用者の健康管理や医師との連携が図られ、24時間オンコール対応となっている。精神科は島外から公立病院に医師が定期的に派遣されており、利用者もその機会に受診するようにしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 2月16日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、看護師が入居者の状況等の報告を行い、体調不良の方については今後の対応について指示を仰いでいます。 常時連絡、連携がとれる体制を行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時等について主治医、地域連携室等との連携を密に行い、入退院の支援に繋げている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期ケアについて主治医、家族、施設(法人)、職員が連携を行い、事態に対応できるよう勉強会の開催、家族との連携を密におこなっている。	看取り介護の加算を取り「重度化した場合における対応に関する指針」も整備している。職員研修も実施され、看取りについての理解と共有を深めており、昨年看取りの実績がある。重度化・看取りの支援は、医療処置等の状態も含め、法人特養ホームと連携し対応している。家族には状態変化に応じて、その都度説明や方針を確認するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内、法人等内にて研修、訓練の実施を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練(初期消火・通報等)と町災害訓練に参加。	町主催の地震等の防災訓練での避難誘導や事業所内での火災等の総合訓練を実施している。消防署立ち入り検査では、「配管の腐敗が酷く、緊急時には対応困難が考えられ、早急な取り替えが望まれること」の報告により、現在検討中である。夜間の災害対応訓練が未実施となっている。	事業所は海拔2mで海岸からは近距離で、敷地横は河川のある立地環境となっているため、特に夜間を想定した災害時対応の訓練の実施が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 2月16日

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格、プライドを尊重しながら、声かけ等をを行い、対応しています。	職員は法人主催の接遇研修を受け、利用者の尊厳についての基本姿勢を共有している。入浴の順番や食卓等の席の配置、配膳の順番等は、利用者に説明し理解を求めて実施している。入浴介助で職員を指名する利用者には、その職員で対応するよう努めている。トイレ入り口はドアとカーテンの二重で仕切りをし、見えない工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の要望を伺いながら、柔軟な対応を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	余暇活動等は入居者の希望を伺ったり、一人ひとりの興味が持てるものなど、工夫し、希望に添えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際は本人の意向を伺いながら対応しています。また定期的に出張理容サービスを利用し、整髪に支援しえます。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の皆さんへ食べたい物がいないか等聞いたり、料理の本と一緒にみながら、メニューを決めたりしています。もやし、野菜の根とり皮むき等したり、食器拭き、テーブル拭きを手伝ってもらっています。	食事は栄養士の献立にもとづいて、利用者の嗜好も反映し旬の食材や差し入れの野菜等使用し、職員が調理している。食欲増進に向け、食前に口腔体操や献立紹介をし、ペースト食の利用者には特に丁寧に説明している。毎食時には利用者のたたんだおしぼりを提供している。母の日行事では、ホテル等での外食も楽しんでいる。職員も一緒に同じ食事を摂っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 2月16日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事摂取量をチェックし摂取量の少ない方については、医師と相談し、高カロリー補助食品等に対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの促しを行っています。介助が必要な方は介護者が行っています。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握、時間を見計らいながらトイレ誘導を行い、排泄の自立にむけた支援を行っています。	利用者の半数が排泄は自立している。その他の利用者也日中はトイレでの排泄を支援している。夜間は眠剤を服用している利用者は、転倒防止のためポータブルトイレに対応している。尿路感染予防のため洗浄等で清潔保持に留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促し、運動(体操・レク活動)への積極的な参加ができるよう、声かけ促しを行っています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3日間隔で入浴を行い、また入居者の方から希望がある時はその都度調整対応しています。個別でゆっくりと入浴を行っています。	入浴は、週2回午前中の中の入浴を基本とし、シャワー浴で個別対応となっている。入浴の順番は利用者に決めさせているが、どちらかと言うと後の方の希望が多い。特に入浴を嫌がる利用者には、入浴後には好みのコーヒー等の飲み物を準備し、入浴を促すようにしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 2月16日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の希望の時間に眠前薬を服薬して頂き、その日の状態を見ながら就寝の促しを行っています。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導を受け適切な服薬・管理を行っている。一人ひとりが使用している服薬を理解、変更等がある場合は、その都度、申し送りノートに記載したり、職員会議等で伝えている。	服薬支援について、過去に誤薬事故があり、服薬管理、誤飲防止及び対応処置について、研修を数回実施し強化している。マニュアルの「配薬は担当者一人を置き、夜間あけの職員には担当させない。袋の名前を声を出して読み上げる」を確認し共有する事で事故防止に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の身体状況にお応じた軽作業への参加、役割を持たせ行う事で達成感、満足感をもつことができる。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	デイサービス送迎を利用したの外出・地域行事への参加・外食(ランチ)おやつ(ケーキ)を楽しむ等外出支援を行う。	日常的な外出としては、デイサービスの送迎時に相乗りしたり、職員と一緒に食材の買い物等で出かけている。地域行事のハーリーやエイサー、季節の花見物や外食を企画し、気分転換を図っている。日常生活支援事業対象者には、社協の協力を得て介護計画に外出を位置づけ個別の支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で管理できる方は所持しています。必要時買い物支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 2月16日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時はその都度対応を行っています。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間で入居者の方々が心地よく過ごせるよう照明器具の光量、テレビやラジオの音量等は、職員がその都度調整を行っています。	居間兼食堂は、車椅子での移動が容易にできる広さの設備となっており、空気清浄器や弱酸性次亜塩素酸水を設置し健康管理に努めている。トイレは居室側と食堂側にあり、部分浴ができるシャワーが設置されている。壁面には利用者の作品や季節の飾り付けがされており、調査時は季節柄クリスマス飾りを施していた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の個々の関係性をみながら椅子の配置を工夫しています。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具など配置、希望者にはテレビを置かれている人もいます。	各居室には、鏡付きの洗面台が設置されており、居室で整容している。テレビやラジカセ、壁掛け時計、整理棚など個別の品が持ち込まれている。壁にはそれぞれの作品や思いのある写真などが飾れており、居心地良い居室づくりの支援が行われている。居室内は清掃が行き届いており、衣服等の整頓もされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全面バリアフリーで居室の入り口には、写真とネームプレートを掲示 居室がわかるように配慮しています。3か所あるトイレは車いすの方が利用できるよう配慮しています。		

(別紙4(2))

事業所名： まがい友遊苑

作成日： 平成 30 年 2 月 26 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	○災害対策 町主催の地震等の防災訓練での避難誘導や事業所内での火災等の総合訓練を実施している。消防署立入検査では、「配管の腐食が酷く、緊急時には対応困難が考えられ、早急な取替がのぞまれること」の報告により、現在検討中であること。夜間の災害対応訓練が未実施となっている。	事業所は海拔2mで海岸からは近距離で、敷地横は河川のある立地環境となっているため、特に夜間を想定した災害対応の訓練の実施が望まれる。	平成30年2月14日(水)に、消防署立会による夜間避難訓練を実施済み。	達成済み
2	26	○チームで作る介護計画とモニタリング サービス担当者会議は、利用者や家族の他、社協や薬剤師等の関係者が参加し、意見は介護計画に反映している。介護計画は、毎月職員カンファレンスや3ヶ月毎にモニタリングを実施し、状態変化時には随時に見直しをしている。サービス目標期間設定で、長期と短期が同一期間となっている介護計画がある。	介護計画の、サービス目標期間について、長期と短期の期間設定による支援が望まれる。	現在、サービス目標期間が長期と短期で同一に設定されている利用者については再度計画を見直しており、次回の介護計画の更新時には、変更する予定で準備しています。	3ヶ月
3	4	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議は、利用者や知見者、地域代表が参加し、年6回定期的に開催しているが、行政の参加は1回となっている。会議では、利用者の活動状況、災害・事故対策への意見や地域の情報交換を行っている。会議録はファイル化し玄関先に置き公表している。	運営推進会議に、指定権者として毎回、行政の参加が望まれる。	平成30年2月15日の運営推進会議においては、行政の参加があり、次回以降の運営推進会議においても、毎回行政の参加ができるように、依頼済み。毎回の参加ができるよう調整する旨の確認ができました。	12ヶ月
4					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。